



《 主催：在福岡アメリカ領事館、パシフィック・フォーラム CSIS 後援：九州防衛局 》

～日米安保 特別シンポジウム～

東アジアの安全保障と日米同盟の役割

●入場無料／日英同時通訳つき●

在福岡アメリカ領事館広報部(福岡アメリカン・センター)は、ハワイに拠点を置くシンクタンク「パシフィック・フォーラム CSIS」との共催で日米安保特別シンポジウムを開催します。2010年9月の尖閣諸島沖における中国漁船衝突事件や、権力承継を控えた北朝鮮における核・ミサイル開発の行方など、東アジアでは依然として不透明な地域情勢が続いています。これらの問題は東アジアの安全保障にとってどのような意味を持ち、日米同盟は今後どのような役割を果たしていくのでしょうか。

このシンポジウムの講師ラインアップには、以前在日米海兵隊司令官や在沖米4軍調整官を務め、09年5月から今年4月まで米国防次官補(アジア・太平洋安全保障政策担当)として普天間移設問題にも従事したウォレス・グレグソン氏や、延世大学 国際大学院長の李正民氏も含まれています。米国、日本、韓国の専門家がそれぞれの国と世代の視点から、各国の認識の共通点と相違点、東アジアにおける日米同盟の役割と同盟関係を深化させるための方策、東日本大震災後のトモダチ作戦における米軍と自衛隊の相互協力を踏まえ日米が地域安全保障協力をどう強化させていくのかなどを討論します。

なおこのシンポジウムの冒頭には、九州防衛局長の廣瀬行成氏に「東アジアの安全保障と日本の取り組み」と題してご講演いただきます。多数のみなさまのご出席をお待ちしております

2011年11月

在福岡アメリカ領事館広報部

- 日時： 2011年12月8日(木) 午後4時～6時20分
- 会場： 福岡アメリカン・センター 電話：092-761-6661
(福岡市中央区天神2-2-67 ソラリアパークサイドビル8階)
- スケジュールと講師：
 - 【1】特別講演 「東アジアの安全保障と日本の取り組み」 九州防衛局長 廣瀬 行成氏
 - 【2】パシフィック・フォーラム CSIS 各講師によるプレゼンテーション
モデレーター：ラルフ・コッサ氏(パシフィック・フォーラム CSIS 理事長)
講師①ブラッド・グロッサーマン氏(パシフィック・フォーラム CSIS エグゼクティブ・ディレクター)
講師②ウォレス・グレグソン氏(元米国国防総省 国防次官補)
講師③松原 実穂子氏(パシフィック・フォーラム CSIS SPF フェロー)
講師④李 正民氏(延世大学 国際大学院長)
 - 【3】パネルディスカッションと質疑応答



◎出席ご希望の方は、別紙ファックス申込用紙(FAX:092-721-0109)、もしくはメール(FACprogram@state.gov)、電話(092-761-6661/土日を除く)で、福岡アメリカン・センター(在福岡アメリカ領事館広報部)へお申込みください。【締切=12月7日(水) 担当=宮内】
◎定員100名に達した場合は、受付を終了させていただきます。なお受講票は発行しません。(申し込み時点ですでに満席の場合のみ、連絡を差し上げます。)

出席申込用紙【申込締切 12月7日(木)】

申込み先: 福岡アメリカン・センター 担当: 宮内 ファックス番号 092-721-0109
メール(FACProgram@state.gov)での申し込み、および代理・同行者の出席も可能です。(先着100名)
2011年12月8日開催 日米安保特別シンポジウム 『東アジアの安全保障と日米同盟の役割』

(1)出席者氏名(勤務先・学校名および役職):

■氏名(よみがな)	勤務先・学校名および役職
_____ ()
■氏名(よみがな)	勤務先・学校名および役職
_____ ()
■氏名(よみがな)	勤務先・学校名および役職
_____ ()

(2)連絡先電話およびファックス番号、電子メールアドレス:

電話=() - ファックス=() -

電子メールアドレス=

(3)通信欄

【モデレーターと講師 略歴】



<特別講演> 廣瀬 行成 (防衛省 九州防衛局長)

1984年防衛庁入庁後、PKO事務局、国際連合日本政府代表部勤務を経て、2000年より02年まで福岡防衛施設局施設部長を務める。その後、防衛庁情報本部分析部長、防衛省防衛政策局国際企画課長、防衛政策局国際政策課長、地方協力局地方協力企画課長を歴任後、2010年8月に九州防衛局長に着任。2011年11月発刊の共著「日中安全保障・防衛交流の歴史・現状・展望」の「第3章 日本の安全保障・防衛交流の歴史」を執筆した。



<モデレーター(司会進行)> ラルフ・コッサ (パシフィック・フォーラムCSIS理事長)

1966年から93年まで米空軍に在籍し、空軍大佐を経て、太平洋軍総司令官特別補佐官を最後に退役。その後、スタンフォード大学フーバー研究所研究員、米国防大学国家戦略研究所副所長を歴任。現在はARF専門家・賢人会議、米韓安全保障研究協議会、全米米中関係委員会などのメンバーを兼任。アジア太平洋安全保障協力会議の創設メンバーでもあり運営委員会の共同議長を務めた。安全保障分野で40年間以上、米国の対アジア太平洋政策の企画・立案に携わっている。



<CSIS講師①> ブラッド・グロッサーマン (パシフィック・フォーラムCSIS エグゼクティブ・ディレクター)

ジャパントゥタイムズ紙の論説委員を10年間務めたのち、現職。パシフィック・フォーラムCSISで国際会議の企画や出版のほか、ヤング・リーダー・プログラムの責任者も務める。米国の外交政策とアジアの安全保障について多数の論文を執筆し、インターナショナル・ヘラルド・トリビューン、ウォール・ストリート・ジャーナル・アジア、ジャパントゥタイムズなどの各紙にも寄稿多数。BBCやアジア各国のラジオで定期的にコメンテーターを務めている。



<CSIS講師②> ウォレス・グレグソン (元米国国防総省 アジア・太平洋安全保障政策担当 国防次官補)

米海兵隊に37年間在籍。2001年から在日米海兵隊司令官や在沖米軍トップの4軍調整官を務めるなど最後の10年間の多くをアジアや、ワシントンDCの対アジア政策担当部門で過ごした。太平洋海兵隊司令官を最後に2005年に退役。米オリンピック委員会最高業務執行責任者を経て、2009年5月から2011年4月まで国防次官補を務め、米国防総省のアジア・太平洋安全保障政策を担当した。現在は自らのコンサルティング会社を営んでいる。



<CSIS講師③> 松原 実穂子 (パシフィック・フォーラムCSIS SPFフェロー)

2000年、防衛施設庁(当時)に語学職(英語)として入庁し、2009年まで防衛省にて在沖縄米軍基地の返還問題およびアジアの安全保障に関する米軍・米国政府との対外折衝に携わる。その後2010年春にワシントンDCの戦略国際問題研究所(CSIS)日本部、2010年夏にヘリテージ財団アジア研究センターにてインターンをし、日米同盟およびアジア太平洋地域の経済・政治・安全保障問題について研究を行った。これまでに日中関係、安全保障等についての論文を発表。



<CSIS講師④> 李 正民 (延世大学 国際大学院院長)

防衛省防衛研究所、RAND研究所、世宗研究所など日米韓の著名シンクタンクで10年間勤務後、1998年から延世大学で教鞭をとる。2008年からは国際大学院院長を兼任。専門は東アジアの安全保障、危機管理、インテリジェンス。東アジアの安全保障問題についてCNN、BBC、ABCへの出演や欧米・アジアの著名な新聞への寄稿多数。大統領諮問委員会など、韓国政府内の様々な諮問委員会メンバーを務める。国際政治に関する豊富な見識を生かし、理論分析と政策実務の両面で活躍。